

わ だ ち



9月も半ばを過ぎました。ワークライフバランスはとれていますか。

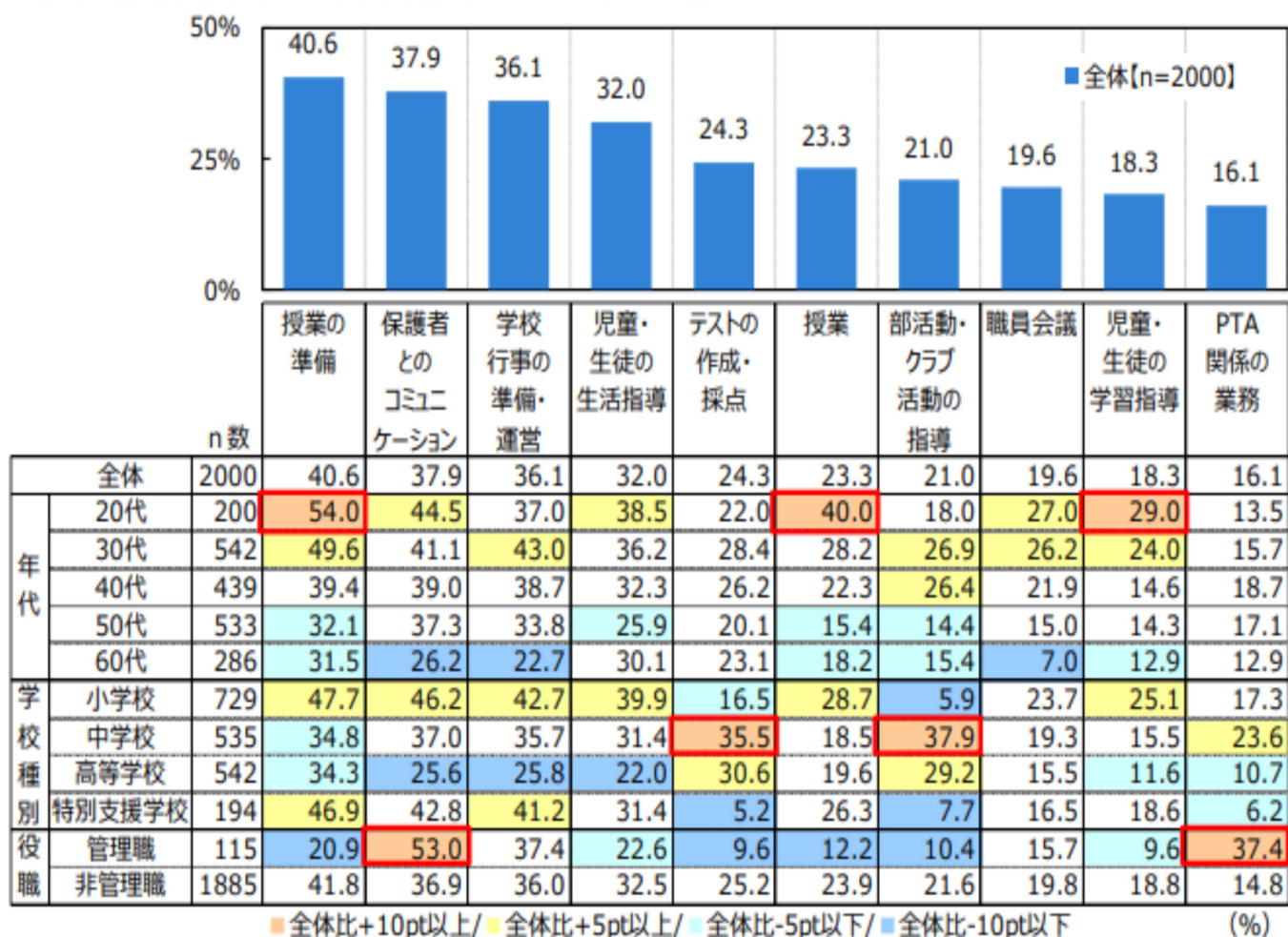
1 「教員が仕事上苦勞していること」調査結果（ジブラルタ生命「教員の意識に関する調査 2023」）

2 特集その1 教員がキャリアアップするためには（民間との比較から）

校種によって仕事上苦勞していることは異なっている。

1 教員が仕事上苦勞していることについては小学校では多い順にベスト3が「授業の準備」「保護者とのコミュニケーション」「学校行事の準備・運営」中学校は「部活動、クラブ活動の指導」「保護者とのコミュニケーション」「学校行事の準備・運営」高等学校は「授業の準備」「テスト作成、採点」「部活動、クラブの指導」特別支援学校では小学校と同様となっている。ことがわかりました。

◆教員の仕事で苦勞していること（複数回答形式） ※上位10位までを表示



2 特集その1 教員がキャリアアップするためには（民間との比較から）

ここからは、何回かに渡って教職員がキャリアアップするための給付金やこれからの教員に求められる資格を紹介したいと思います。1回目は教職員がキャリアアップするための給付金について紹介します。民間では雇用保険があり、キャリアアップのための3つの給付金があります。給付金額は各給付金ごと、資格ごとに異なります。詳しいことは次号でお知らせします。雇用保険は再任用者や講師にも該当しますが、条件が決められています。一方正規職員は地方公務員なので雇用が安定しているため、雇用保険がありません。そこで、各県で資格取得奨励金の制度を設けています。しかし、これは上位免許を取得するためや異なる校種の免許を取得するための制度で民間のようにキャリアアップのための資格認定の給付金ではありません。公務員はほとんど自腹で資格認定のための費用を支払わなければなりません。私も民間の企業の方が資格認定のための給付金をもらって通っている中、自腹で通っていました。これでは、なかなかキャリアアップなんてできないなと思いました。（つづく）

キャリアアップについてもう少し知りたいなと思われた方は下記まで、直接私に声をかけてくださってもかまいません。皆さんの相談に無料で応じます。

norix7364@wave.plala.or.jp（小文字）または 090-7426-3034 秋葉まで